地場産業の活性化を目指し 十王地区コミュニティの新たな拠点へ――

日本の紅（あか）をつくる町推進拠点施設整備工事の起工式並びに安全祈願祭が9月13日、山峡の里交流広場で行われました。

施設は延床面積約800平方㍍で木造平屋建て、工期は9月7日～平成30年3月28日の予定です。展示室のほか、交流体験ホールや商品研究室、加工室、テラス部には加工体験コーナーを計画。地場産業の活性化や十王地区の地域コミュニティ活性化の拠点施設としていくことを目的に施設整備を行います。

この日は、地元役員、町及び町議会、設計・施工業者など約40人が出席し、工事の無事を祈願しました。佐藤町長は、「本施設建設には、長年にわたる皆さんの熱い思いがこめられている。十王地区がますます活気ある地域となることを祈念する」とあいさつ。続いて、海老名愼一郎十王区長が「とうとう実現できてうれしい、日本の紅（あか）をつくる町にふさわしい拠点となるよう魂をふきこんでいきたい」と笑顔で話しました。

喜びのあいさつを述べる海老名十王区長

役場企画政策課で職業体験をした青木豪さん（左）と鈴木茉凛さん

話して学ぶ大切なこと――生徒と地域の大人の対話会

9月7日、児童生徒がいじめの防止・根絶について地域の大人とともに主体的に考えることを目的とした「生徒と地域の大人の対話会」が白鷹中学校で開催されました。

この日は、白鷹中学校の1年生及び教職員、町青少年育成町民会議会員など約160人が参加。はじめに、LINE㈱のオフィシャルインストラクターが「楽しいコミュニケーション」を考えることをテーマに講演。続いて、生徒と大人が話し合いながら「ネットとうまく付き合うための標語づくり」を行いました。参加者の紺野琢夢くんは「SNSやLINEは相手の感情が見えないので、相手の気持ちを考えて使いたい」と感想を述べました。

標語づくりでは、子どもも大人も積極的にコミュニケーションをとった

国指定文化財観音寺観音堂（深山観音） 茅葺屋根がリニューアル

5月に始まった茅葺屋根の全面改修工事が終了し、観音寺観音堂が新しく生まれ変わりました。

室町時代後期に建立されたと言われる観音堂は、県内最古の木造建築物として歴史的にも貴重な建造物で、白鷹町唯一の国指定文化財（重要文化財）となっています。その荘厳なたたずまいは訪れる人々に歴史の重みを感じさせてくれます。昨年は、参道の登り口付近に駐車場と公衆トイレが整備されましたので、町の観光名所の一つとしてお客様をご案内いただくのも良いかもしれませんね。ぜひ足をお運びいただき、リニューアルした観音寺観音堂をご覧ください。

伝統的な技法で茅葺屋根の葺き替え作業が行われた